

本堂廊下天井改修工事着工



百年に一度の大改修、子や孫の代まで安心、
 本堂屋根の改修工事も終わり、いよいよ改修最終段階となり廊下並びに廊下天井改修工事が行われています。光遍寺門信徒の皆様に分担していただいた改修費に加え、有縁の方々からいただいたご懇志によって、経費のめどがたち、六月下旬より着工の運びとなりました。

そんな中、この度、分担金を負担して下さった門信徒の皆様方、ご懇志をあげて下さった方々は、その価値を十分に理解して下さっていることを何よりも嬉しく思います。決してお金があり余っているわけでもなく、むしろ年金生活で生活も苦しい中、「先祖代々護ってきた光遍寺のためなら」、「今私がやらなければ」、「子や孫たちに光遍寺を、お念仏を伝えていきたい」との思いで、なげなしお金を出してくださいました。

私たちが本堂の太い柱や立派な門構え見て先祖の思いを感じるように、必ず皆さんの思いは、子孫たちにも伝わります。



光遍寺新聞



第 19 号

発行所

〒638-0315
 奈良県吉野郡
 天川村沢原 141
 浄土真宗
 本願寺派
 仏照山
 光遍寺

電話番号
 0747-63-0638
 ホームページ
<http://www.kouhenji.org>

山門緊急修理も



大正時代に立てられた山門ですが、昨年末、その梁（はり）が腐っており、たゆんでいることが発覚しました。下写真はその部位で、矢印の部位は腐食が進み、向こう側が透けて見えます。現在木材をあてがう応急処置をして下さっていますが、放っておけば山門崩壊の危険性もあります。廊下改修の予算内で山門の修理もできるということで、今回同時に行っていたことになりました。



お盆の永代経法要

〔8月10日(火), 11日(水)〕

来る八月十日(火)、十一日(水)にお盆の永代経法要が勤まります。昼座は午後二時より、夜座は午後七時三十分より勤まります。布教使には宇陀市菟田野の眞證寺住職 高澤邦雄先生をお招きしています。お誘い合わせの上お参りください。

お盆には、お墓参りが盛んに行われます。もちろん亡くなられた方を偲び大切にする意味合いでお墓参りをするのは大事なことであります。先人の本當の願いに耳を傾けるべきではないでしょうか。亡き方のお導きにより、私たちが眞実の世界と出会える、お念仏のいわれを聞かせていただく尊い機会にしたいだけだと思います。

夏休みということもあり、ご家族・ご親戚が集うことと思います。是非一緒に「一度みんなでお寺にでも参ろうか」と光遍寺に足を運んでください。そのお姿をご覧になると、お浄土のご先祖もさぞお喜びになると思います。

今月の法語

世の中は
 「こそ」の二文字の
 つけどころ
 乱るるもこそ
 治まるもこそ



《前号(第18号)門信徒広場の答え》

700回大遠忌法要の際、団体参拝のバスは、のべ
 正解：◎10,411台 750回忌ではもっと多くなるのではないのでしょうか。



700 回大遠忌法要(昭和 36 年)の吉野南組団体参拝にはこれだけの方が参拝されました



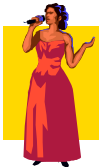
親鸞聖人750回大遠忌法要

吉野南組団体参拝について

先日開かれました吉野南組内会におきまして、来年度の団体参拝の詳細が発表になりました。日時は平成二十三年六月十一日、十二日、宿泊場所は琵琶湖グランドホテル、費用は宿泊費、交通費等で三万円十懇志三千元、十一日の昼座に参拝し(帰敬式も受けられますので、希望される方は光遍寺までご連絡ください)、次の日は比叡山を観光して帰ってくる予定です。また、団体参拝だけではなく、一般参拝もできますので、そちらでお参りいただいても結構です。いずれにしても、多くの方にお参りいただければと思います。

宗祖親鸞聖人750回大遠忌 お待ち受け法要 一吉野南組一 のご案内

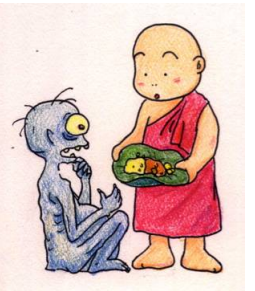
吉野南組では、来年度お迎えする親鸞聖人 750 回大遠忌法要の気運を盛り上げることをめざし、下記の通り、“宗祖親鸞聖人750回大遠忌 お待ち受け法要 一吉野南組一”を修行・開催する運びとなりました。お忙しいとは思いますが、お誘い合わせの上、ご参加ください。



- 日時: 平成 22 年 8 月 21 日(土) 午後 1 時~午後 4 時 30 分ごろ
- 場所: 天川村和田 永豊寺
- 日程: 法要, 記念撮影, 記念法話(富山教務所所長 河村 信 師), 記念行事(オペラコンサート花月 真 氏)

門信徒 広場

今回は学校の試験のように、文章中の穴埋め問題です。次の文章は、「浄土真宗のお盆」についての勸学(本願寺学階制度の最高位)梯 実円(かけはし じつえん)先生の記述です。(1)~(5)に当てはまる語句を、下の①~⑮の中から一つずつ選んでください。



お盆は「盂蘭盆会」というように、「(1)」の説話が、その由来になっているといわれています。

ある時、神通第一の仏弟子・(2)が、餓鬼道に墮ちていた母親を神通力で見つけました。なんとか救おうとしますが、差し出す食物が皆、炎となって、救うどころか、逆に母を苦しめてしまいます。そこでお釈迦さまに救いを請いますと、7月15日、雨期の安居(勉強会)を終えた後、修行していた僧侶たちに飲食物の供養をするようにいわれ、これを実行したところ、餓鬼道で苦しむ母親を救うことができたというものです。

この説話は、何を表しているのでしょうか。ここで大事な点は、(2)ほど修行して神通力を得たお方でも、餓鬼道の母に食物を施すことも、餓鬼道から救うことができないということです。お釈迦様がおっしゃるとおり、修行僧たちに供養することで救われたということです。供養とは、(3)(仏、法、僧)への敬いの心を形で表すことです。母が救われたのは、(2)が(3)に供養する姿を通して、母がはじめて(3)の貴さに気付いたからです。この説話は、(3)こそ帰依すべきものであるという仏、法、僧の(3)の尊厳性を示しています。また、(2)でさえ母親を救うことが出来なかったというのは、結局、物では人は救えないことも示しています。物では人は救えないとは、どういうことか。人の心を開き、心境を転換させるのは、物ではなくて仏の説かれた法(真理)なのです。法に帰依し、真実の道理に心開かれたとき、はじめて我欲に翻弄される餓鬼でなくなります。そこで、救われたというのです。この点が欠落すると、仏教でなくなってしまいます。

お経に説かれた内容の表面だけをとらえ、しかも餓鬼を怨霊とみなし、それを救うために供物を施せばいいというふうを考えますと、仏教とは関係ない(4)としての「施餓鬼」になってしまいます。一般的なお盆といえば、精霊の送り迎えなど、ほとんどが霊祭りの形態をとっています。浄土真宗のお盆は、一般の先祖供養するのとは違うのです。浄土真宗のみ教に生きた人びと(先祖)は、お盆の時だけ帰ってきて子孫の供養をうけるような方々ではありません。(5)の本願力によって、さとりの世界であるお浄土に生まれ、常に私たちを見護り導いてくださる方々です。

亡くなった方も、私たちも、みんな(5)のお手の中です。生と死を包んで一切を照らしたまう(5)を念ずることを通して、はじめて私たちは亡くなった人達との共通の場が与えられていることに気が付きます。そういうこの世を超えた領域の確認ができるのが、お念仏の世界です。先祖との本当の心の交流は、(5)を介さないできません。亡くなった方(5)を通じて会うとき、はじめて愛と憎しみを超えた本当の会い方ができるのです。

① 阿弥陀経 ② 山岳信仰 ③ 長老舍利弗 ④ 涅槃経 ⑤ 目連尊者 ⑥ 二宝 ⑦ 怨霊信仰 ⑧ 阿難尊者
⑨ 阿弥陀様 ⑩ 盂蘭盆経 ⑪ 四宝 ⑫ 大日様 ⑬ 三宝 ⑭ 浄土信仰 ⑮ 薬師様

分かった方は光遍寺までご連絡ください。正解者先着5名様まで記念品を用意しています。